

令和4年度 図画工作科実践・研究計画

部 員	○佐々木 恵, 進藤 亨
-----	--------------

研究テーマ
**表したいことをはっきりともち、表したいイメージに近づくように、
 学びのものさしを活用して表現を工夫する子どもを育む学び**

1 研究テーマについて

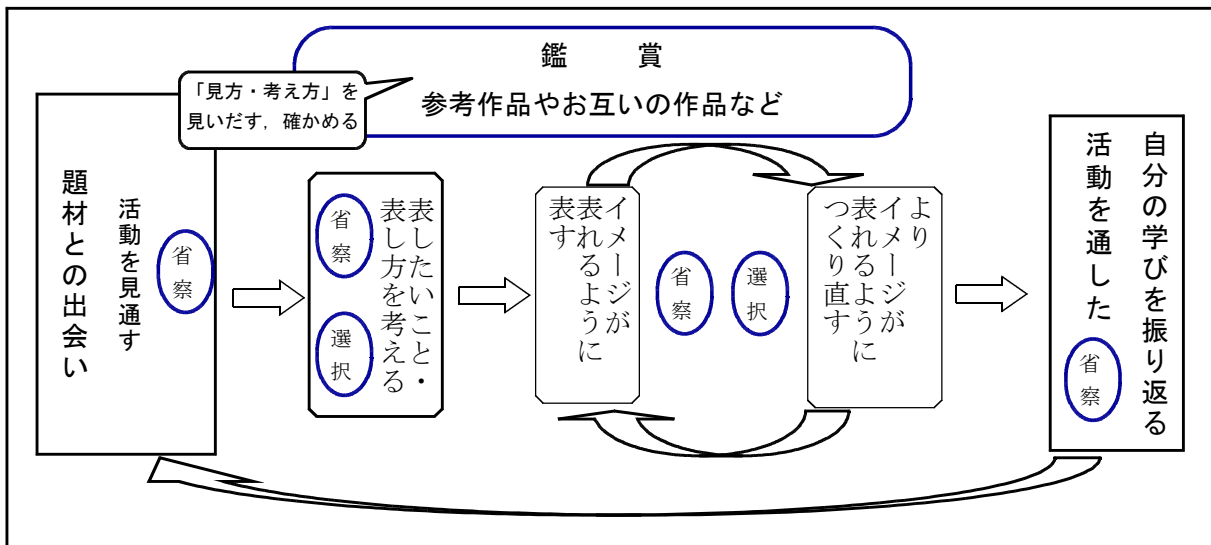
図画工作科の特質は、自分が表したいイメージを形や色で表すことである。表現するとき、表したいことが効果的に表現できているかどうか、形や色に着目した「見方・考え方」を働かせながら省察し、試行錯誤を繰り返す。

表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではない。互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら、補い合って高まっていく活動である。自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見合い、自分の見方や感じ方を深めていくことを期待したい。

表現と鑑賞を連動させ、形や色に着目した「見方・考え方」を見いだしたり確かめたりしながら、自分の「学びのものさし」を活用して、作品づくりに取り組む子どもの姿を目指し、実践を積み重ねていく。

図画工作科で目指す自律した子どもの姿

- ・表したいイメージに近づくように、形や色に着目した「見方・考え方」を働かせながら、表現を工夫する姿。
- ・作品づくりや鑑賞を通して作品などに対する見方や感じ方を広げ深め、自分の学びを自覚し、今後に生かそうとする姿。



図：図画工作科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

イメージや形、色などに着目した「見方・考え方」を働かせながら、表現を工夫していく子どもを支えるための手立て

- 導入で参考作品やお互いの作品を鑑賞する場を設定し、その題材で働かせる「見方・考え方」を確かめ、本時で活用する「学びのものさし」をはっきりさせることができるようにする。
- 子どもとの対話を通して、子ども一人一人が目指すゴールを見取り、個に応じた支援をする。